

アイデンティティ

1853年5月、琉球に来航したペリー。上陸の記念碑は、県立泊高校正門前付近の外人墓地内に建てられています。

ペリーが琉球を絶賛

ペリーが琉球を絶賛

あの有名なペリーは、日本の浦賀に来航したことは日本史の大きな事件です。いわゆる黒船来航ですが、実は日本に向かう前に琉球に来航し、首里城を訪問しています。



ペリー提督

ペリーは、首里城を訪問した際、首里の町の美しさを次のように表現しています。

「私はこの町より高度の清潔さを示す大都市や町をまだ見たことがない。一片の汚物やチリさえも見なかった。この町は、中国のすべての都市の汚さとは全然異なっている。」と述べています。

また、ペリーは日本滞在中の会食に招かれた際に、料理の評価について、

「ご馳走や料理の仕方はいつも同じで、全体的にみて、その豪華さと美味しさにおいては、日本人や中国人よりも琉球人の方に、私は決定的に軍配をあげる。」と記しています。

私たちが日頃、慣れ親しんでいる首里の町並みは、約150年前に沖縄を訪れたペリーが、その高度な清潔さを絶賛しています。

町並みを清潔にする先人の意識を受け継

いで、校舎内や教室もきれいにしよう。

また、沖縄料理の豪華さと美味しさもペリーは高く評価しています。もともと沖縄料理は、健康食として、数十年前の長寿県沖縄を支えていました。

生徒の皆さんの中から、将来、沖縄料理を今風にアレンジして、中華料理や和食に負けない料理として、創作する人材が出てくることを期待しています。

先人が育んできた伝統文化や慣習を継承し、沖縄を誇りに思い、自身のアイデンティティを確立していこう。

那覇市に「ペリー」という地名があった？

那覇軍港に面した山下町は、戦後の一時期「ペリー」とよばれていた。アジア太平洋戦争で米英軍を苦しめた山下奉文大将を思いおこさせるからだといわれている。

なぜペリーなのかわかっていないが、ペリー提督の名前をとったとか、米軍キャンプの指揮官の名前ではないか、などといわれている。

現在でも、ペリーの名のついた病院や保育園などが山下町付近にある。私が子どもの頃、ペリー線という路線バスがあったことを覚えている。

中城湾を臨む ペリーの旗立岩

首里城から中城城へは、西原町幸地グスクを経由して崖沿いの道を通って行く。王朝時代のこの道を中城ハンタ道という。

ペリー艦隊が派遣した島内探検隊も、この道を通って中城城へ向かっている。新垣グスクの北側に、地元でターチシー（二つ岩）と呼ばれる二つに割れた琉球石灰岩の岩があり、頂上からは中城湾がよく見渡せる。ペリーの探検隊もこの岩に興味をもったらしく、その周辺で休憩をとっている。

「ペリー提督沖縄訪問記」には、「我々は、松林から高くそびえている一つの不思議な岩に出会った」と記され、Banner Rock（旗岩）と名付けたことが記されている。

彼らは岩の頂上に星条旗を立てて祝砲を打ち鳴らした。その様子が同行の画家ハイネによって描かれ、「訪問記」に挿絵として掲載されている。



ペリーの旗立岩（中城村）

アマキリマってどこ？

ペリー艦隊が日本から琉球へ戻る際の記録に、「アマキリマ(Amakirima)が見えてきたので、われわれのいる位置が決定できた」とある。アマキリマとは、慶良間諸島のことで、バジル・ホルの航海記録にも記されている。

1816年に英艦船が来航した際、琉球の役人が那覇から見える島々を「アマキリマ」(あそこは慶良間)と説明したため、地名だと思って名付けたのであろう。以後、アマキリマは地図にも記され、那覇港への指針とされた。

水兵殺害事件の真相

ペリー艦隊の水兵たちのなかには、厳しく長い航海生活の反動のためか、琉球に上陸すると酒を求めて民家に押し入ったり、女性を見つけてはからかったりして住民にひんしゆくを買うものもいた。

1854年、ペリーが日米和親条約を結んで日本に滞在していた頃、心配していた事件が起こった。6月12日、琉球に残っていた艦船の水兵3人が、那覇の町を散策しながら酒を求めて民家に押し入り、騒動をおこしていた。そのうち、ウィリアム・ボードという水兵は、酔っ払って町中をさまよったあげく、またもや民家に入り込み、機織りをしていた女性に乱暴をはたらいた。ところが、今度はボードの方が騒ぎを聞いてかけつけてきた住民に石をもって海岸まで追われ、ついに海に突き落とされて溺死してしまった。

7月、那覇に戻ってきたペリーは、この事件を知って大層怒り、王府に対して真相究明と犯人の処罰を求めてアメリカ側立ち会いのもとで裁判を開かせた。その結果、主犯の渡慶次は八重山へ一世流刑、従犯の6人は宮古へ8年の流刑となった。しかし、刑は執行されなかった。真相は別だったからだ。ペリーも琉球側の証言を疑ってはいたが、この事件を利用して琉米条約を結ぼうと考えていたので、深く追求することはなかった。

ペリーが琉球を離れた後、王府は真相究明にもとづいた判決を出して薩摩藩へ報告した。主犯は松永という人物で、彼は事件を知って憤り、逃げるボードの頭に石を投げつけて殺害した。というのが真相であった。王府は真犯人の松永を八重山へ15年の流刑、共犯の渡慶次らを金武の観音寺へ90日間の寺入りに処している。これでボード殺害事件は一件落着となった。米国は琉米条約を結ぶことに成功したが、琉球も自国の裁判権を守り抜いたのである。